

「鞆の浦」の景観

2月22日付の日本経済新聞夕刊の「旅」というコーナーで広島県の鞆の浦が紹介されている。そこで創業300年を誇る澤村船具店の7代目店主が、標高90㍍の場所に高さ6㍍の電柱を設置してライブカメラを据え付け、鞆の景色を24時間生中継するHPを昨年から開設したとあった。早速アクセスすると、美しい景色を見ることができた。

このレポートにも書いたことがあるが、福山市立女子短大に集中講義に出かけた時に鞆の浦を案内してもらった。写真はその時に撮ったものである。鞆港の象徴である「常夜灯」が保存されている。豪商や回船問屋の土蔵なども残っており、昔をしのばせるような町並みがつづく。先の記事でも「港自体が近世の瀬戸内海文化を伝える文化財なのだ」と指摘している。



もう一つの写真は、高台にある福禅寺の客殿「対潮楼」から撮った鞆の浦である。江戸時代に日本を訪れた朝鮮通信使の一行は対潮楼を宿舎としたが、ここからの眺めを「日東第一形勝」、朝鮮より東にある場所で最も美しい景色として絶賛したという。私もここから眺めた鞆の景観に感動して、立ち去りがたかったものだ。



この鞆の浦が危機に瀕している。鞆は道路が狭く、港内の一部を埋め立てて自動車用の道路を建設する計画が持ち上がった。埋立架橋計画に対して、地元住民から反対の声があがり、景観保全を求める研究者やNPOなどにも広まっていった。世界遺産財団(WMF)も2002年の危機監視対象に鞆の浦を選んだという。冒頭で紹介した景観ネット中継も、「鞆の浦が危ない」という危機感から始められたという。ぜひ一度アクセスすることをお勧めしたい。

(2006年2月23日 記)